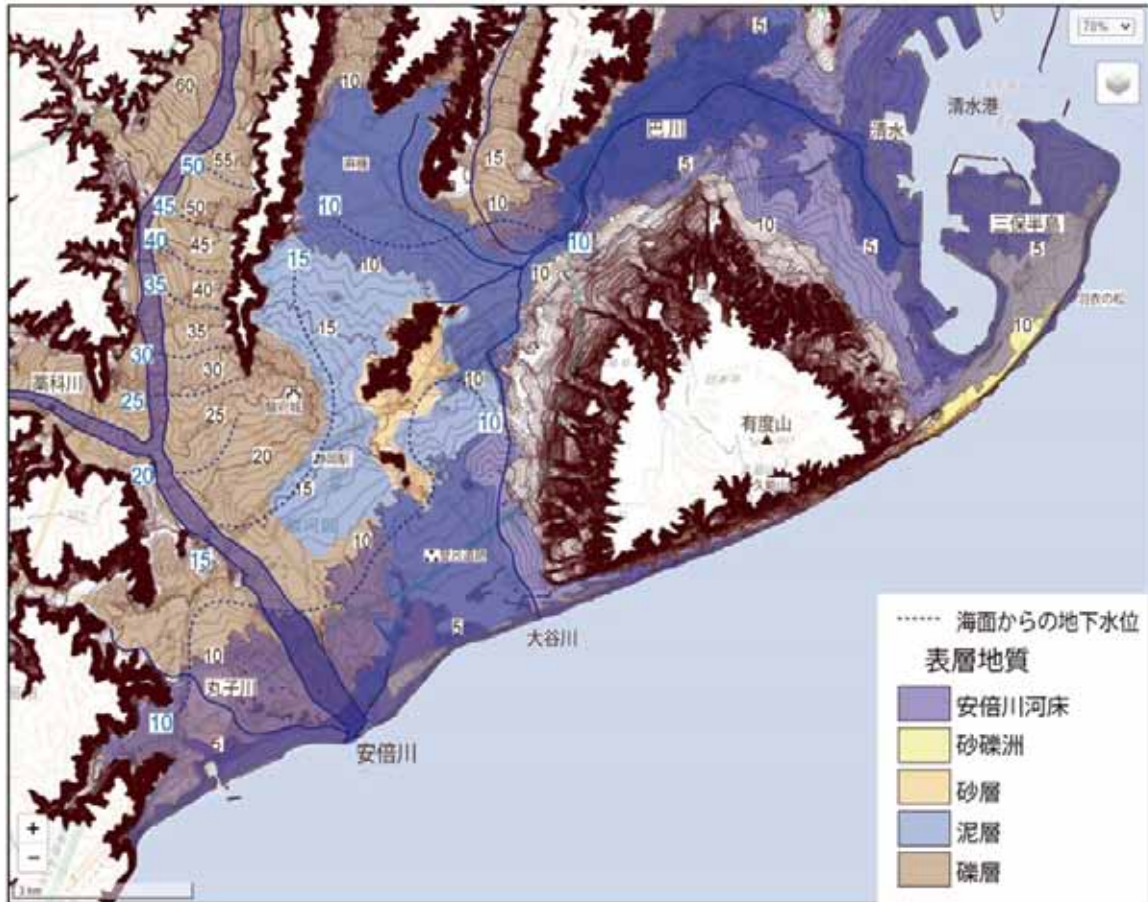


静岡平野の扇状地と湧水

柴 正博



静岡・清水平野の地形と表層地質と地下水位

静岡平野は、安倍川の伏流水により、とても水に恵まれたところですが、街のいくつかの場所では湧水もあり、地下水もとても豊かです。

静岡平野の西側は安倍川と藁科川の扇状地になっています。徳川家康が薩摩土手を築かせて、安倍川の流路を変えて藁科川と合流させ、安倍川の東側への氾濫を抑えました。それにより、駿府城の南側に城下町が発展し、静岡平野の南側の低地や巴川流域にも耕作地（新田）が拡大し、清水湊も整備されました。

上の図は、静岡・清水平野の地形を1mの等高線（100mまで）で表し、表層地質図を重ね、安倍川に沿った地下水位を示し、5m以下の低地を青く塗ったものです。静

岡平野西部の扇状地は、その南端が静岡駅付近にあるものと、おそらくそれよりも古いその南側に開いた、上下2つの扇状地からなると思われます。

扇状地は礫層からなり、地下水をよく通します。それに対して、氾濫原に堆積した泥層は水を通しにくいいため、川から地下へしみ込んだ伏流水は、扇状地の礫層の下の泥層の上を流れて、地表の礫層と泥層の境界のところで湧水として流出します。その場所は、ちょうど地下水位が海拔高度よりも高いところに一致しています。

また、青く塗った5m以下の低地のうち、濃い色の地域は、もともとの低湿地にあたり、洪水の時など浸水域となる可能性があります。